

住宅団地における交際の性格について

太田 利彦
 染 中 尚^{*}

(* 本社設計部)

§ 1. はじめに

1.1 一般に、共同住宅の概念としては、同じ住戸単位が、ただ繰返し積重ねられたものと想定され易いが、元来、異なった生活をもつ人間が、どこまでこうした画一的な器に対応し、かつ、それが逆に人間の生活にどのような影響を与えているかを確かめておく必要がある。

従来、こうした観点から、共同住宅の設計計画における研究は、個々の間取りと個々の生活との関係を取り扱ったものが多かった。しかし一方、近年になって、共同住宅の団地内で否応なく形成される地域社会が、どのようなものであるか、実態を把握し、それが団地内の住戸の設計にどのような影響を与え得るか、さまざまな角度からの研究も行われ始めている。(1)~(9))

1.2 本論は、後者研究の一環をなすものであり、主として、団地内居住者が、どのような交際を通じて地域社会を構成しているか、調査分析したものである。すなわち、団地内における交際の性格の分析から、やがて、共同住宅の平面型式の再検討、各棟における各種住戸型式の組合わせ方、あるいは居住地域単位、団地内公共施設の考え方の資料を導こうとするのが目的である。

§ 2. 調査状況

2.1 調査対象団地

従来の団地に関する諸研究との関連を考え、また、現

状の団地の大部分を占めていることから、日本住宅公団の住宅団地を対象とし、ランダムサンプリングに基き、地域社会を形成するに十分な戸数を有する次の2団地を選んだ(表-1, 図-1~2)。

団地名	百合ヶ丘団地	日吉団地
所在地	川崎市大字高石塚 字富士	横浜市港北区下田町 日吉本町
敷地面積	約 22,000 坪	約 17,000 坪
入居期日	第1回 昭和35年8月 第2回 " 9月 第3回 " 10月	第1回 昭和32年11月 第2回 " 12月 第3回 昭和33年1月
戸数	4階フラット 418戸 5階フラット 570戸 5階ポイント 60戸 診療所付住宅 1戸 計 1,079戸	4階フラット 264戸 5階ポイント 45戸 テラス 154戸 単身用 200戸 店舗付住宅 4戸 計 667戸
一般概況	所在地は、小田急線百合ヶ丘駅前。中心部迄徒歩3~4分。百合ヶ丘駅→向ヶ丘遊園駅間のバスが団地内を通過する。	所在地は、東横線日吉駅下車、徒歩15~20分、バス約10分。日吉駅→団地間を連絡バス1日約100往復。

表-1 調査対象団地一覧

- 1. K59-4N-3DK-2a (16)
- 2. K59-4N-2DK-a (24)
- 3. K59-4N-2DK-a (24)
- 4. K59-4N-2DK-a (16)
- 5. K59-4N-4DK-a (16)
- 6. K58-4N-2K-a (24)
- 7. K58-4N-2K-a (24)
- 8. K59-4N-2K-a (16)
- 9. K59-4N-2DK-a (24)
- 10. K59-4N-2DK-a (24)
- 11. K59-4N-2DK-a (24)
- 12. K58-5P-2DK-2 (15)
- 13. K58-5P-2DK-2 (15)

- 14. K58-5P-2DK-2 (15)
- 15. K58-5P-2DK-2 (15)
- 16. K59-4N-3K-3 (16)
- 17. K59-4N-3K-3 (24)
- 18. K59-4N-3K-3 (24)
- 19. K59-4N-3K-3 (16)
- 20. 集会所
- 21. 診療所
- 22. スーパーマーケット
- 23. K59-4N-2DK (24)
- 24. K59-4N-2DK (24)
- 25. K59-4N-2DK-a (32)
- 26. K59-4N-2DK (16)

- 27. K59-1N-2DK-a (24)
- 28. K59-4N-2DK-a (16)
- 29. K59-5N-2K-2-a (30)
- 30. K59-5N-2K-2-a (50)
- 31. K59-5N-2K-2-a (30)
- 32. K59-5N-2K-2-a (30)
- 33. K59-5N-2K-2 (40)
- 34. K59-5N-2K-2 (40)
- 35. K59-5N-2K-2-a (40)
- 36. K59-5N-2K-2-a (40)
- 37. K59-5N-2K-2-a (30)
- 38. K59-5S-2K-2 (20)
- 39. K59-5S-2K-2 (30)

- 40. K59-5N-1DK-2-a (50)
- 41. K59-5N-1DK-2-a (50)
- 42. K59-5N-1DK-2-a (50)
- 43. K59-5N-1DK-2-a (50)
- 44. 4N (24)
- 45. 4N (8)
- 46. 57-4N-3K-3 (16)
- 47. 管理事務所



図-1 百合ヶ丘 団地配置図

1. 56.5P.2DK.2.15
2. 56.5P.2DK.2.16
3. 56.5P.2DK.2.15
4. 56.TN.2D.6
5. 56.TN.2D.8
6. 56.TN.2D.8
7. 56.TN.2D.8
8. 56.TN.2D.8
9. 56.TN.2D.8
10. 56.TN.2D.4
11. 2D.2
12. 2D.2
13. 56.TN.2D.4
14. 2D.2
15. 2D.2
16. 56.TN.2D.4
17. 56.TN.2D.4
18. 56.TN.2D.4
19. 2D.2
20. 2D.2

21. 56.TN.2D.4
22. 56.TN.2D.4
23. 56.TN.2D.4
24. 2D.2
25. 2D.2
26. 56.TN.2D.4
27. 56.TN.2D.4
28. 56.TN.2D.4
29. 2D.2
30. 2D.2
31. 2D.2
32. 2D.2
33. 56.TN.2D.2
34. 56.TN.2D.2.6
35. 2D.2
36. 2D.2
37. 56.TN.2D.2.4
38. 2D.2
39. 2D.2
40. 56.TN.2D.2.4

41. T2D.2
42. T2D.2
43. T56.TN.2D.2.4
44. T2D.2
45. T2D.2
46. T56.TN.2D.2.4
47. 56.4N.2DK.2a.16
48. 56.4N.2DK.2a.4
49. 56.4N.2DK.2a.32
50. 56.4N.2DK.2a.32
51. 56.4N.2DK.2a.32
52. 56.4N.2DK.2D.16
53. 56.4N.2DK.2a.24
54. 56.4N.2DK.24
55. 56.4N.2DK.24
56. 56.4N.3K.2.24
57. 56.4N.3K.2.24
58. 集会所・管理事務所
59. ポンプ室
60. 高架水槽

小学校
下田分校 (870名)

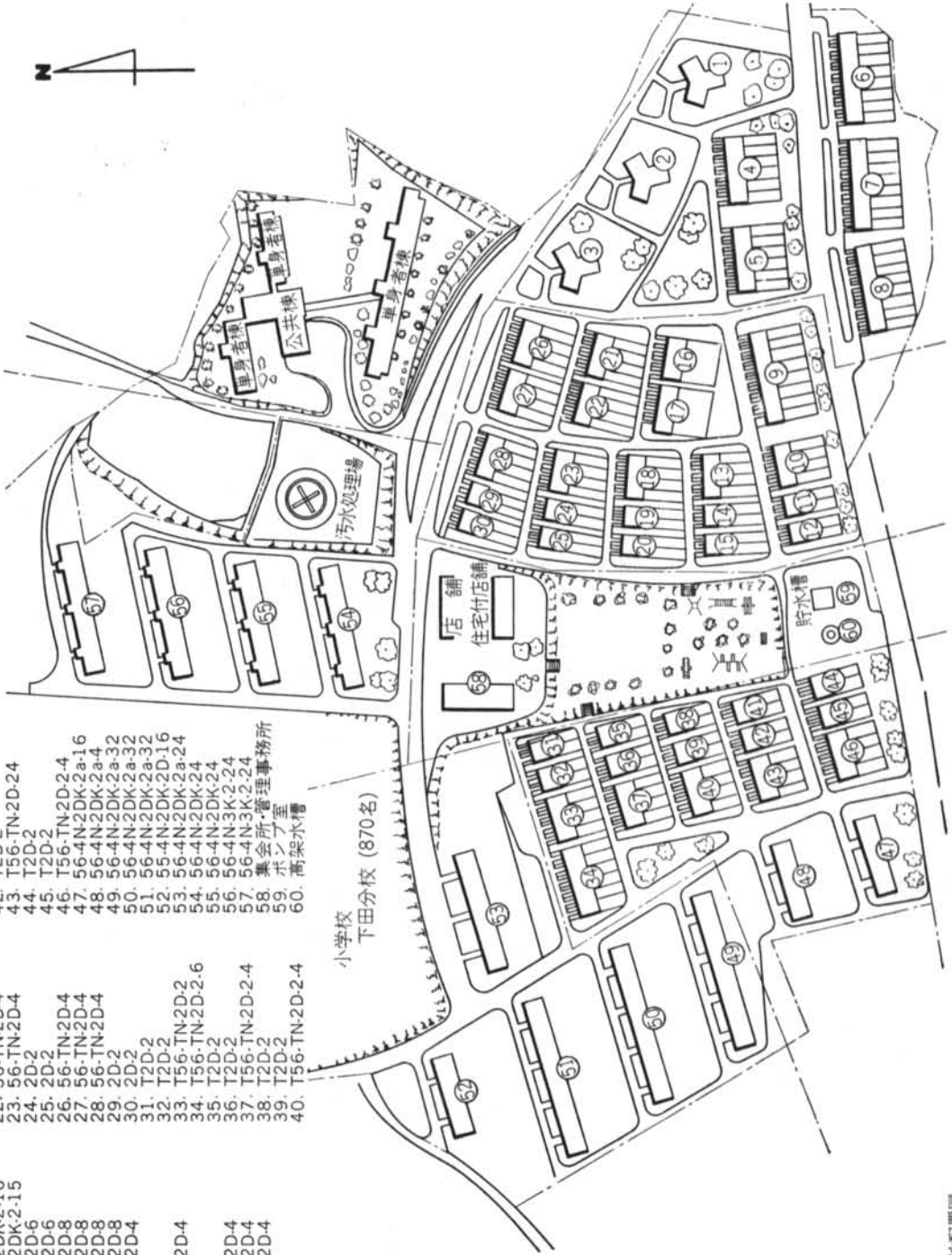


図-2 日吉団地配置図

2.2 サンプルング

先ず、日吉団地では、全戸数の10%程度のサンプルを目標として抽出したが、整理の結果、個々の調査項目について資料が不足なので、次に百合ヶ丘団地では20%近くのサンプルを抽出した。方法は、いずれも各構造型式ごとに、層別ランダムサンプリングによった(表-2)。

百合ヶ丘(全戸数1,079戸)		日吉(全戸数 667戸)	
4階フラット	83戸	4階フラット	25戸
5階フラット	107戸	5階ポイント	4戸
5階ポイント	10戸	テラス	16戸
		単身用	20戸
計	200戸	計	65戸

表-2 サンプル一覧

以後、調査結果の分析に当っては、資料の揃っている〈百合ヶ丘〉を主にし、〈日吉〉はそのチェック用に使用した。

2.3 調査内容・調査方法

調査は、アンケートによるものとし、調査内容は、§1に記したように、団地内交際の実態把握を目標に、凡そ交際に関係ありそうな要素を予め検討し、次のような調査項目に整理して調査用紙を作製した。なお、下記項目の中、(Ⅲ)、(2)交際内容、動機等については、Radburn Planning⁹⁾を参照した。

▶ 調査事項 ◀

〔Ⅰ〕お宅の御家族に関して

- この団地における居住年数 (年 カ月)
- 御家族の内訳
 - 世帯人員数 現在()人。入居時()人。
 - 子供の数 0~5才()人。6~12才()人。
13才以上()人。
 - 幼稚園に行く年頃の子供があれば
(括弧内の語を○で囲む)
 - 通園の有無(有・無)
 - 通園していれば
 - 幼稚園の位置(団地近接・その他)
 - 通園の方法
(徒歩・スクールバス・バス・電車・その他)
 - 通園付添の有無(有・無)
- 将来のことについて

※世帯主、主婦別にお答えください。該当しない方

(例えば独身の方)は、成人男子は世帯主の項に、成人女子は主婦の項に御記入ください。

※各項該当欄に○を付ける。

項目	居住者別	
	世帯主	主婦
この団地に永住するつもり		
他の団地に移りたい		
団地から出たい		
自分の家を建てるつもり		
その他		
その理由	理由:	理由:

〔Ⅱ〕団地内の集会に関して

1. 団地内集会所の利用について

(1) 集会所利用の有無

※有無を○で囲み、月平均回数を記入。

- 世帯主(成人男子)…(有・無) 平均()回
- 主婦(成人女子)…(有・無) 平均()回
- 子供 …(有・無) 平均()回

2. 団地内の集会について

(1) 下記の集会種目のうちで、昭和36年中に参加した種目。 ※ ○を付ける。

注: 独身の方は、男子は世帯主、女子は主婦の各項に記入。

種目	世帯員		注 主婦	注 子供	その他
	世帯主				
自治会・幹事会					
PTA・母子会・教育講演会					
育児相談					
保健衛生(予防注射など)					
料理・美容講習会					
茶道・生花					
手芸・人形・編物					
商品展示会					
囲碁・将棋・マージャン					
老人会					
映画・幻灯					
子供学習会					
絵画教室					
音楽教室					
バレエ・ダンス					
その他					

(2) 集会所に対する希望意見

- a. 世帯主 ()
- b. 主婦 ()
- c. 子供 ()
- d. その他 ()

(3) 団地内の催し物のうちで、昭和36年中に参加した種目。

※ ○を付ける。

注：独身の方は、男子は世帯主、女子は主婦の各項に記入。

種目	世帯員		注		その他
	世帯主	主婦	主婦	子供	
運動会					
野球・その他球技大会					
団地祭					
盆おどり					
ラジオ体操					
海水浴・ハイキングなど					
映画会					
その他					

(4) 団地内の集会、催し物に不参加の方の理由

※理由を表の下項目から選び符号を記入。

世帯員	世帯主	主婦	子供	その他
理由				

- a. 子供があって手が離せない
- b. 集会の内容に興味がない
- c. 家事が忙しい
- d. 集会を知らなかった
- e. 職を持っているので暇がない
- f. サークルに入っていないので
- g. 人との付き合いが億劫だ
- h. 集会に出るのが面倒だ
- i. 入居後日が浅かった
- j. 内職している
- k. 病氣
- 1. その他

(Ⅲ) 交際に関して

1. 世帯主の項目 (※独身の方では男子の項目)

(1) 団地内の交際相手世帯数 大体 () 軒
団地周辺の " 大体 () 軒

(2) 交際の内容・相手・動機について

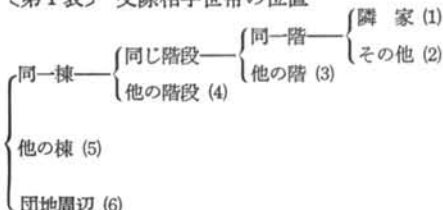
※下記の表内に、第1表から相手世帯の位置を各末尾の番号で取りだし、本表の相手世帯の位置の欄に記入。

交際の内容は、各項該当する欄に○を記入。

さらに第2表から、交際の動機を選び、本表下部にa, b, c, ...で記入。

交際の内容	相手世帯の位置			
	例	4		
調味料・道具などの貸借				
小包・届物などの代理受取				
子供をみてもらう	○			
外出時の連絡				
病気時の助け合い				
共に外出する	○			
訪問し合って余暇を楽しむ	○			
個人的なお喋り	○			
移転前からの知人				
その他				
交際の動機(第2表を参照)	d			

(第1表) 交際相手世帯の位置



(第2表) 交際の動機

- a. 前からの知合い
- b. 近所だから
- c. 気が合う
- d. 子供を通じて
- e. 団地内の集りで
- f. 職業上のつながり
- g. その他

(3) 交際のない方の理由

- a. 入居したばかり
- b. 必要がない
- c. 団地内に友人を持とうと思わない
- d. つき合うのがおっくうだ
- e. その他 ()

2. 主婦の項目 (※独身の方では女子の項目)

以下、1.と同内容

調査方法は、サンプリングされた個々の住戸に、調査主旨と協力方の依頼文を印刷した調査用紙を配布し、翌日、回収した。

配布期日：

<百合ヶ丘> 昭和37年1月25日
A.M. 10.00 ~ P.M. 3.00

<日吉> 昭和36年12月12日
P.M. 1.00 ~ P.M. 3.30

回収率：

<百合ヶ丘> 151/200=75.5%
 <日吉> 39/45 =86.7% (一般棟)
 8/20 =40.0% (単身用)

2.4 調査対象者

サンプリングによって選ばれた結果、調査対象者の一覧は次の通りであった(表-3)。

型	団地		日吉	
	百合ヶ丘	日吉	百合ヶ丘	日吉
Co	39	25.8	2	5.1
Cb	81	53.6	13	33.3
Ck	6	4.0	8	20.5
Ca	10	6.6	10	25.7
Coβ	4	9.3	2	5.1
Cx	1	0.7	4	10.3
計	151	100.0	39	100.0

表-3 家族型別世帯数

記号：Co:夫婦のみ

Cb:夫婦と学令前の幼児

Ck:夫婦と小学生を頭とする子供

Ca:夫婦と中学生以上を頭とする子供

Coβ:夫婦と(子供と)その他の同居者

Cx:家族構成不明

なお、ここで家族型に分類したのは、子供の有無および子供の年齢が、交際の性格に関係があると考えられたためであり、後に種々の分析に当たって、様々の分類が必要となるが、家族型分類はその中心となるものである。

§3. 交際の性格

3.1 交際軒数

調査表の集計により、団地内で交際のある場合、相手の軒数は、次の通りであった(表-4, 図-3~図-5)。

家族型 世帯員 軒数	Co			Cb			Ck			Ca			Coβ			計		
	M	W	F	M	W	F	M	W	F	M	W	F	M	W	F	M	W	F
0	15 37.5%	5 12.5%	5 12.5%	25 31.3%	3 3.7%	3 3.7%	0	0	0	7 70.0%	1 10.0%	2 20.0%	3 21.5%	1 7.1%	1 7.1%	50 33.3%	10 6.6%	11
1	7 17.5%	11 27.5%	10 25.0%	13 16.3%	3 3.7%	4 5.0%	0	0	0	0	0	0	4 28.5%	5 35.7%	5 35.7%	24 16.0%	19 12.6%	19
2	8 20.0%	4 10.0%	7 17.5%	9 11.2%	8 10.0%	10 12.5%	3 50.0%	3 50.0%	3 50.0%	1 10.0%	2 20.0%	2 20.0%	0	2 14.3%	2 14.3%	21 14.0%	19 12.6%	24
3	0	5 12.5%	4 10.0%	10 12.5%	24 30.0%	25 31.2%	0	0	0	0	3 30.0%	3 30.0%	2 14.3%	3 21.5%	3 21.5%	12 8.0%	35 23.4%	35
4	1 2.5%	4 10.0%	4 10.0%	4 5.0%	8 10.0%	8 10.0%	0	1 16.6%	1 16.6%	0	0	0	0	1 7.1%	1 7.1%	5 3.3%	14 9.35%	14
5	1 2.5%	3 7.5%	4 10.0%	1 1.2%	6 7.5%	6 7.5%	0	0	0	0	2 20.0%	2 20.0%	0	0	0	2 1.33%	11 7.34%	12
6	0	0	0	2 2.5%	3 3.7%	3 3.7%	0	1 16.6%	1 16.6%	0	1 10.0%	1 10.0%	0	0	0	2 1.33%	5 3.33%	5
7	0	0	0	0	2 2.5%	1 1.2%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2 1.33%	1
8	1 2.5%	0	0	0	1 1.2%	1 1.2%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 0.66%	1 0.66%	1
9	0	1 2.5%	1 2.5%	0	2 2.5%	2 2.5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3 2.0%	3
10	0	3 7.5%	3 7.5%	2 2.5%	8 10.0%	8 10.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2 1.33%	11 7.34%	11
10<	0	0	0	0	2 2.5%	2 2.5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2 1.33%	2
20<	0	0	0	2 2.5%	2 2.5%	4 5.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2 1.33%	2 1.33%	4
不明	7 17.5%	4 10.0%	2 5.0%	12 15.0%	8 10.0%	3 3.7%	3 50.0%	1 16.6%	1 16.6%	2 20.0%	1 10.0%	0	5 35.7%	2 14.3%	2 14.3%	29 19.3%	16 10.7%	8
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.8	99.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	99.9	150

表-4 家族型別交際軒数 (M:世帯主 W:主婦 F:世帯)

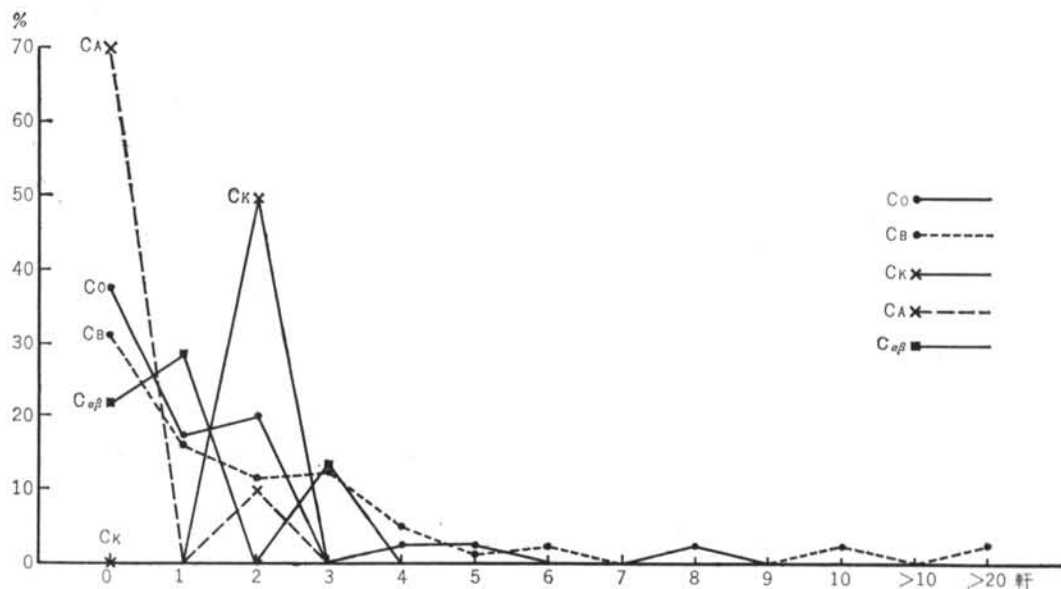


図-3 家族型別交際軒数（世帯主）

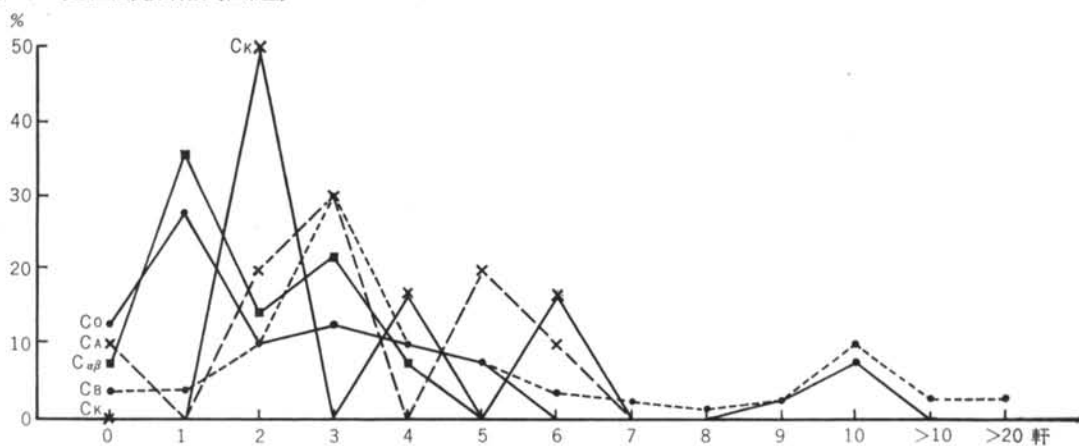


図-4 家族型別交際軒数（主婦）

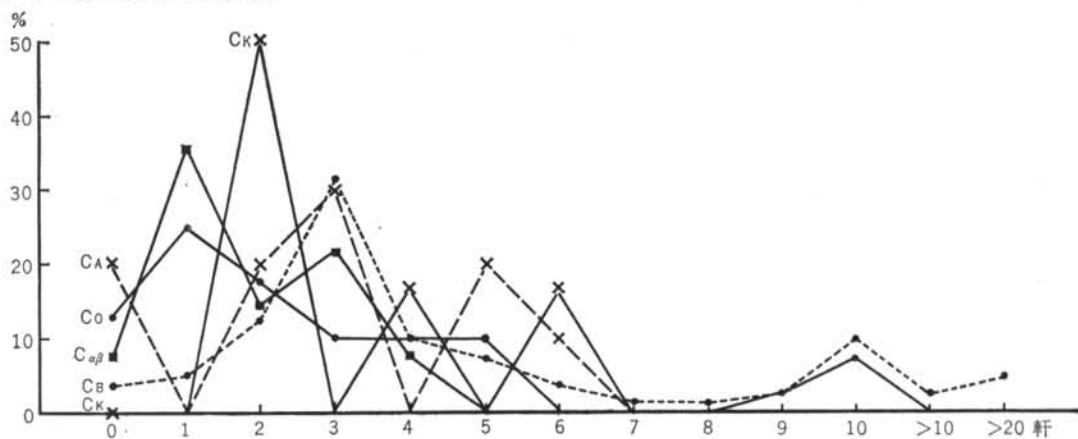


図-5 家族型別交際軒数（世帯*）

*：世帯主，主婦の双方のいずれか交際軒数の多い方を集計したもの。例えば，世帯主が交際軒数2，主婦が4の場合は，世帯としての交際軒数を4とする。

すなわち、家族型とは無関係に、大勢としてはポアソン分布に近く、元来、同じ団地に居住するということだけで、それほど、交際というものは活発になるものでは

ないということであろう。特に世帯主の場合にこの傾向が強く、交際は2~3軒止りである。これに対し、主婦の場合にはやや多いが、4~5軒を越えない(図-6)。

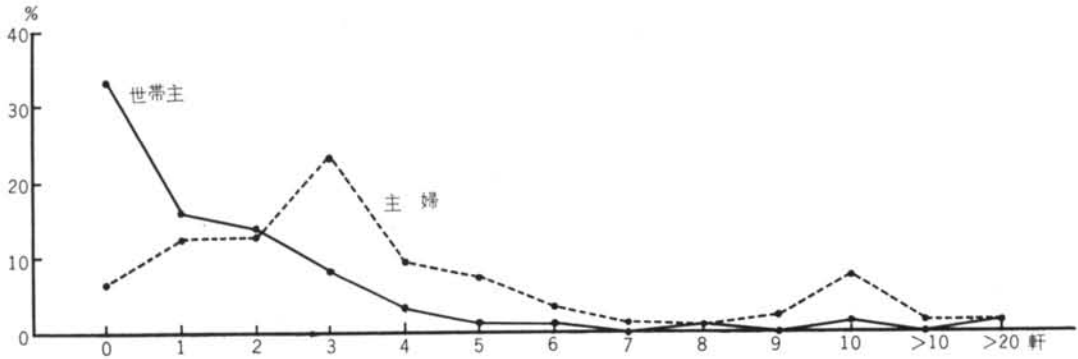


図-6 世帯員別交際軒数

3.2 交際動機

次に、これら交際の動機について求めてみると、表-5、図-7、図-8 のようになる。

すなわち、世帯主では、“近所だから” 交際の生じたこと以外に、際立った動機は見当らない。主婦の場合も、“近所だから” という動機は、著しい特徴を示し、

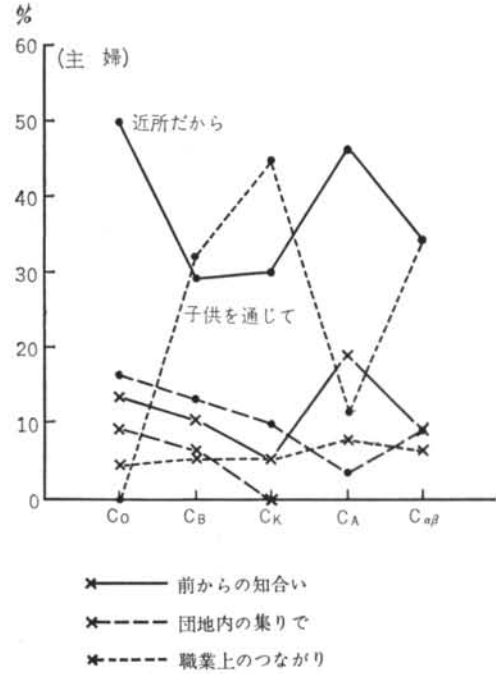
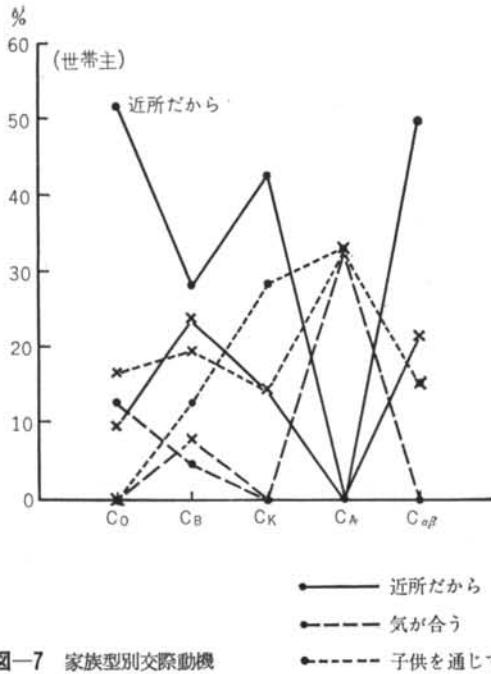
そのほか、特にC_B、C_Kの家族型では、はじめて子供という媒体を通して、交際の始まる場合が多くなっているのは当然であろう。

これらは、すべて従来の関連論文^{4)~5)}にもみられるように、団地内の交際は配置計画にはっきり影響され、子供を通じて拡がるのがうかがわれる。

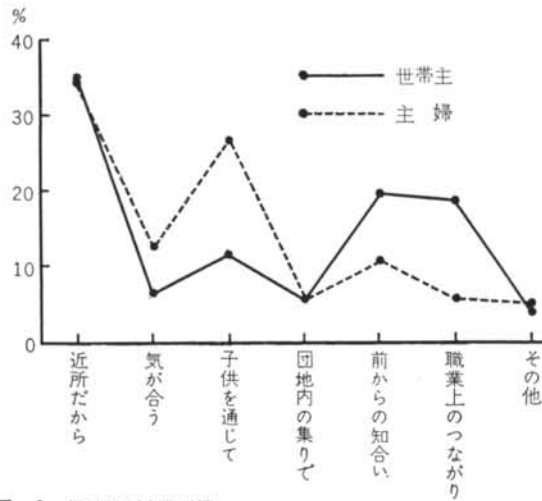
家族型 世帯員 動機	C _D		C _B		C _K		C _A		C _{αβ}		計	
	M	W	M	W	M	W	M	W	M	W	M	W
近所だから	16 51.5%	37 50.0%	29 28.4%	87 29.4%	3 42.8%	6 30.0%	0 0.0%	12 46.2%	7 50.0%	11 34.4%	55 35.0%	153 34.1%
気が合う	4 12.9	12 16.2	5 4.9	39 13.2	0 0.0	2 10.0	1 33.3	1 3.85	0 0.0	3 9.36	10 6.37	57 12.7
子供を通じて	0 0.0	0 0.0	13 12.75	95 32.1	2 28.6	9 45.0	1 33.3	3 11.5	2 14.4	11 34.4	18 11.5	118 26.4
団地内の集りで	0 0.0	7 9.45	8 7.85	18 6.06	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	8 5.1	25 5.57
前からの知合い	3 9.6	10 13.5	24 23.6	30 10.1	1 14.3	1 5.0	0 0.0	5 19.3	3 21.2	3 9.36	31 19.7	49 10.9
職業上のつながり	5 16.2	3 4.05	20 19.6	16 5.4	1 14.3	1 5.0	11 33.3	2 7.7	2 14.4	2 6.26	29 18.5	24 5.36
その他	3 9.65	5 6.75	3 2.94	11 3.72	0 0.0	1 5.0	0 0.0	3 11.5	0 0.0	2 6.26	6 3.8	22 4.92
不明	7	3	4	5	0	0	1	0	2	3	14	11
計*	31 99.9%	74 99.9%	102 99.9%	296 99.9%	7 100.0%	20 100.0%	3 99.9%	26 100.05%	14 100.0%	32 100.0%	157 99.9%	448 99.9%

表-5 家族型別、世帯員別交際動機

*: 計には不明を含まず。



図一七 家族別交際動機



図一八 世帯員別交際動機

交際内容	世帯主		主婦		計	
	人数	%	人数	%	人数	%
調味料・道具などの貸借	14	4.9	56	6.7	70	6.3
小包・届物などの代理受取	53	18.6	124	14.8	177	15.9
子供を見てもらう	17	5.9	64	7.7	81	7.2
外出時の連絡	36	12.6	101	12.1	137	12.2
病気時の助け合い	21	7.3	66	7.9	87	7.7
共に外出する	15	5.2	54	6.5	69	6.1
訪問し合って余暇を楽しむ	54	18.9	151	18.0	205	18.3
個人的なお喋り	27	9.4	120	14.4	147	13.1
移転前からの知人	40	14.0	40	4.8	80	7.1
その他	9	3.2	59	7.1	68	6.1
計	286	100.0	835	100.0	1121	100.0

表一六 世帯員別交際内容

3.3 交際内容

また、これら交際について、内容を集計した結果が、次表である(表一六)。

なお、このままでも交際内容の性格の一端はうかがい得るが、さらに、団地内の交際内容がどの程度のものか、親しさの度合を推測する目安として、便宜上、次の3段階に分類してみる。

- a. 浅い交際：(1) 小包、届物などの代理受取
 (2) 外出時の連絡
 (3) その他(この内容は、PTA関係、趣味の会関係といったものが多く、その数の比較的小さいことから、ここに入れる。)
- b. 中程度の交際：(1) 調味料、道具などの貸借
 (2) 子供を見てもらう
 (3) 個人的なお喋り

c. 深い交際：(1) 病気時の助け合い

別項目として、移転前からの知人。

(2) 共に外出する

この分類により、交際相手の位置別に、家族型別、世

(3) 訪問し合って余暇を楽しむ

帯員別に集計したのが表-7、図-9～図-12である。

家族型	親密程度	隣 家		同 階 段		他 階 段		他 棟		団地周辺		計	
		M	W	M	W	M	W	M	W	M	W	M	W
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
C _γ (39)	浅	17	37	5	9	2	4	2	6	1	2	27	58
		63.0	63.8	18.5	15.5	7.4	6.9	7.4	10.3	3.7	3.5	100.0	100.0
	中	7	15	2	8	0	4	2	8	0	0	11	35
		63.6	43.0	18.2	22.8	0	11.4	18.2	22.8	0	0	11	35
	深	9	21	2	10	2	5	4	10	1	0	18	46
	50.0	45.7	11.1	21.7	11.1	10.9	22.2	21.7	5.6	0	18	46	
移	0	1	0	0	1	0	7	8	0	0	8	9	
	0	10.1	0	0	12.5	0	87.5	89.0	0	0	8	9	
計	33	74	9	27	5	13	15	32	2	2	64	148	
C _B (81)	浅	37	86	9	41	2	15	9	28	0	5	57	175
		65.0	49.2	15.8	23.4	3.4	8.6	15.8	16.0	0	2.8	100.0	100.0
	中	11	50	10	47	2	20	10	53	0	4	33	174
		33.3	28.8	30.3	27.0	6.1	11.5	30.3	30.4	0	2.3	33	174
	深	15	43	10	45	3	25	29	71	2	4	59	188
	25.4	22.8	17.0	24.0	5.1	13.3	49.1	37.8	3.4	2.1	59	188	
移	1	0	3	4	0	1	27	20	0	0	31	25	
	3.2	0	9.7	16.0	0	4.0	87.1	80.0	0	0	31	25	
計	64	179	32	137	7	61	75	172	2	13	180	562	
C _K (6)	浅	5	6	0	0	0	4	2	3	0	0	7	13
		71.4	46.2	0	0	0	30.8	28.5	23.8	0	0	7	13
	中	3	3	0	0	0	3	3	3	0	0	6	9
		50.0	33.3	0	0	0	33.3	50.0	33.3	0	0	6	9
	深	3	3	0	0	0	3	4	9	1	1	8	16
	37.5	18.7	0	0	0	18.7	50.0	56.3	12.5	6.3	8	16	
移	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2	
	0	0	0	0	0	0	0	50.0	100.0	50.0	1	2	
計	11	12	0	0	0	10	9	16	2	2	22	40	
C _λ (10)	浅	0	8	0	0	0	1	0	5	0	2	0	16
		0	50.0	0	0	0	6.2	0	31.3	0	12.5	0	16
	中	1	6	1	1	0	1	0	3	0	2	2	13
		50.0	46.1	50.0	7.7	0	7.7	0	23.1	0	15.4	2	13
	深	2	4	0	1	0	1	0	4	0	2	2	12
	100.0	33.3	0	8.3	0	8.3	0	33.3	0	16.8	2	12	
移	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	1	3	
	0	0	0	0	0	0	100.0	100.0	0	0	1	3	
計	3	18	1	2	0	3	1	15	0	6	5	44	
C _{αβ}	浅	7	13	0	1	1	5	0	2	0	1	8	22
		87.5	59.1	0	4.5	12.5	22.8	0	9.1	0	4.5	8	22
	中	5	5	0	1	0	3	0	5	1	0	6	14
		83.3	35.7	0	7.2	0	21.4	0	35.7	16.7	0	6	14
	深	1	3	0	1	0	3	3	6	2	1	6	14
	16.7	21.4	0	7.2	0	21.4	50.0	42.8	33.3	7.2	6	14	
移	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	2	1	
	0	0	0	0	0	0	50.0	0	50.0	100.0	2	1	
計	13	21	0	3	1	11	4	13	4	3	22	51	

表-7 家族型別親しさの程度と相手

a	79	192	22	82	7	47	20	74	1	11	129	406
	64.2	63.5	56.4	49.7	58.2	48.4	29.4	33.3	12.5	45.8		
b	44	111	17	83	5	50	48	142	7	13	121	399
	35.8	36.5	43.6	50.3	41.8	51.6	70.6	66.7	87.5	54.2		
計	123	303	39	165	12	97	68	216	8	24	250	805

表-8 交際内容と相手 (a: 団地内生活のために生ずる交際 b: 通常起るべくして生ずる交際)

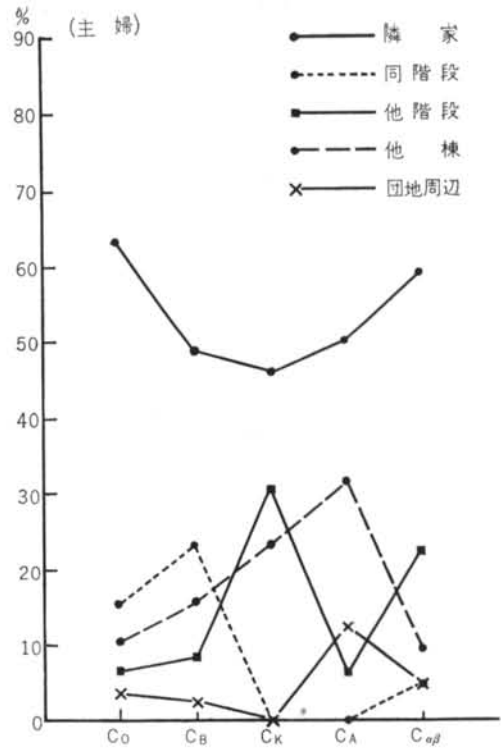
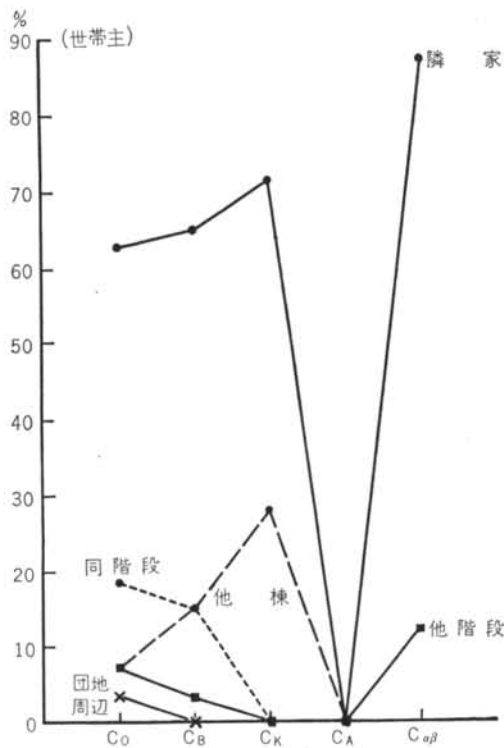


図-9 家族型別親しさの程度と相手 <浅い交際>

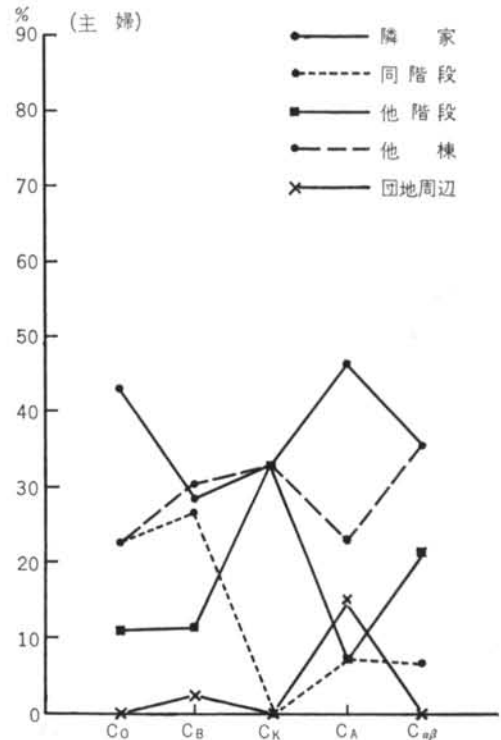
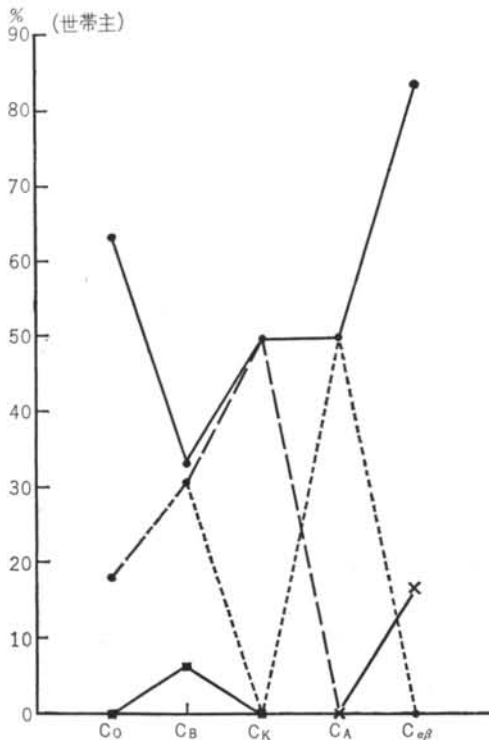
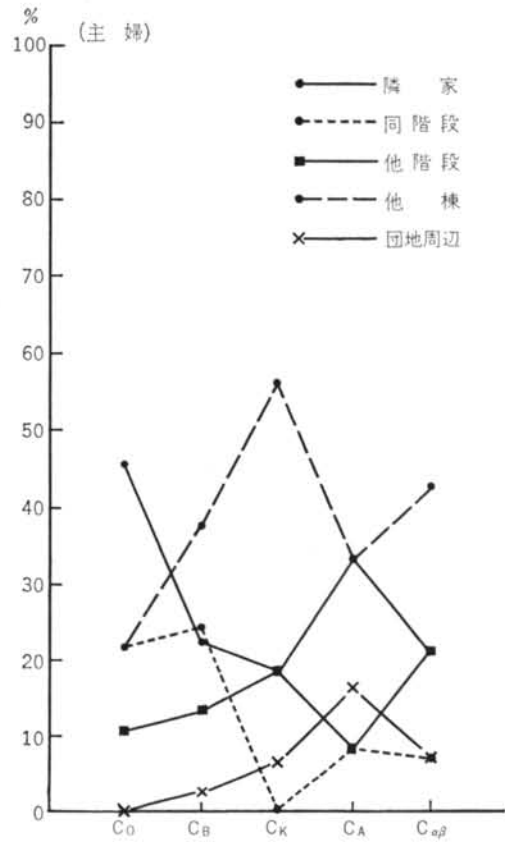
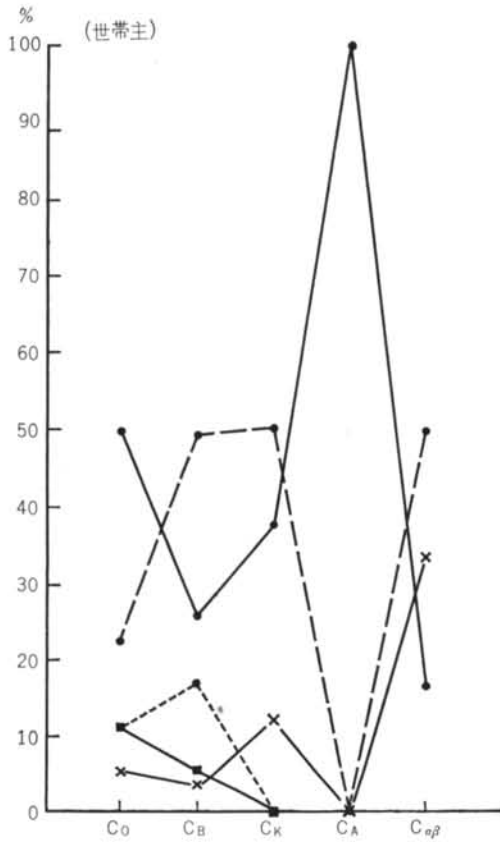
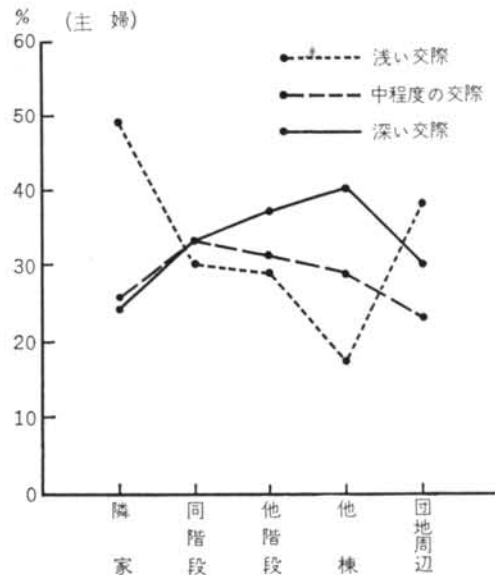
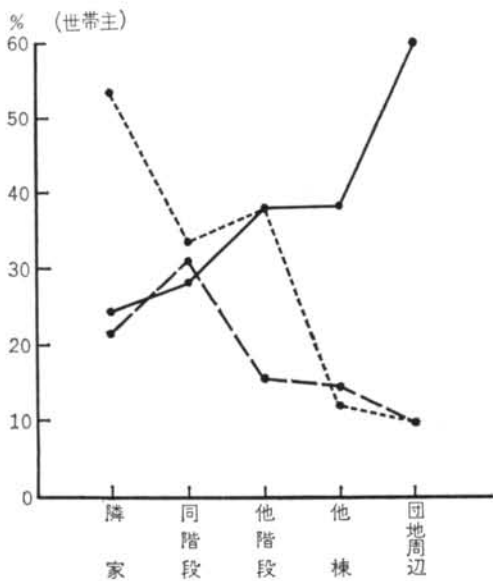


図-10 家族型別親しさの程度と相手 <中程度の交際>



図一11 家族型別親しさの程度と相手 <深い交際>



図一12 位置別親しさの程度と交際相手

これからみられるように、家族型とは無関係に、浅い交際は近所付き合いといった距離の関係から生ずるものであり、交際が深まるにつれて、住戸の位置関係は、大きな影響を与えていない。このことは、先に挙げた交際動機の“近所だから”の多いことを裏付けており、団地内の交際が必ずしも、地域社会を構成する上に、大きな比重をもっていないことを意味しよう。すなわち、住居単位のまとまりとか、地域社会の構成の上で、交際という点で注目した場合、仮りに交際を重視して棟や住戸の配置計画をしても、大した期待はかけられず、浅い交際の範囲を出ないということである。むしろ逆に、個々の住生活の障害になるような交際なら、積極的に排除できる方向に計画することすら考えられるのではあるまいか。

このような見地から、さらに上記のアンケートから、団地内生活の故に生ずる交際と、通常起るべくして生ずる交際に分けて考えてみる。

a. 団地内生活のために生ずる交際として

- 小包、届物の代理受取
- 外出時の連絡
- 調味料、道具の貸借

子供をみてもらう

その他

b. 通常起るべくして生ずる交際として

- 個人的なお喋り
- 病気時の助け合い
- 共に外出する
- 訪問して余暇を楽しむ

むろん、これらは、性質上はつきり2つに分けられるものではなく、かなり2者の間に相関があると思われるが、aについては、団地生活の利点として、今回調査の回答に挙げられた数少い具体的事項の“鍵ひとつで外出できる”ことや、手軽に近隣に人のいることが原因となっているものと考えられる。つまり、団地内生活の利点が、本来、団地という公共性によって得られたものではなく、近隣の個人の負担の上に成立しているとも考えられる。このような分類で集計してみたのが表-8、図-13である。これらは、明らかに以上のことを裏書きしており、団地内生活を支えるための方便としての交際が、近隣関係を介して行われ、かつ、それが近所付き合いの大半を占めていることがわかる。

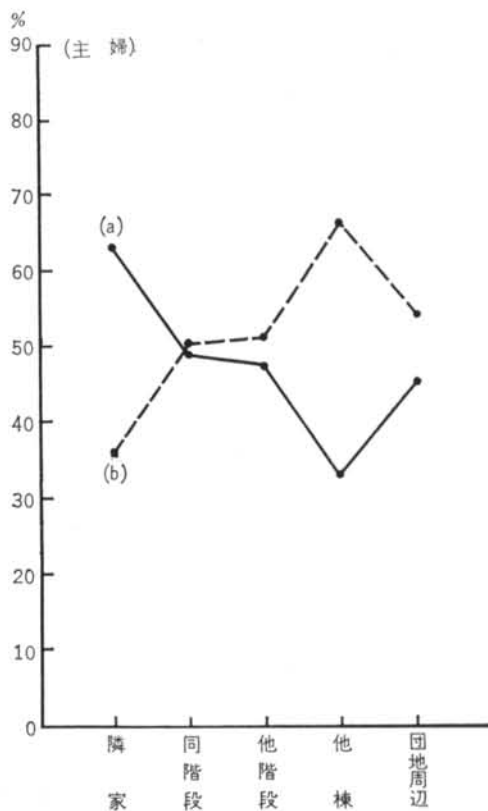
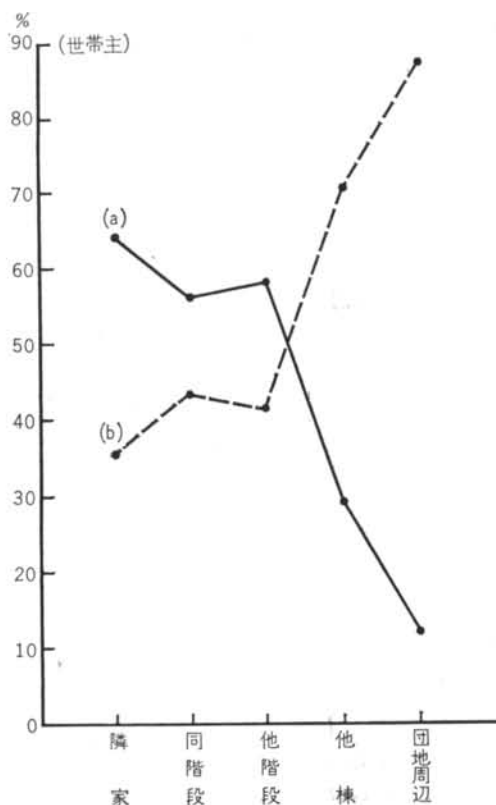


図-13 位置別交際内容と相手

§ 4. まとめ

4.1 以上の調査結果の分析を要約すると、

- 1) 団地内では世帯の家族型とは無関係に、交際はあまり活発ではない。
- 2) また、交際の動機となるものは、いわゆる近所付き合いといった距離的要素に支配されやすい。
- 3) その内容は、小包、届物などの代理受取、外出時の連絡といった程度の浅いものである。
- 4) さらに内容を分析の結果、以上の近隣関係の交際は団地内生活を支えるための方便として生じたものとも考えられる。

4.2 従って、将来、集団共同住宅の計画に当っては、その建築的利点を最大限に発揮できることが望ましく、それら利点が、ただ集団化した各個人の負担において成立している現状は、好ましくないと考えられる。

すなわち、今回の調査でも、団地に永住したいと回答したものは〈百合ヶ丘〉では39/284(13.7%)、〈日吉〉では13/75(17.4%)に過ぎず、特に積極的理由として回答されたものは、先にも挙げたように“鍵ひとつで外出できる”ことくらいであった。しかしこの利点が、実は団地生活の名の下に、各世帯員の近隣関係に依存されている嫌いがある。

4.3 従来、団地の公共施設として、教育施設、医療施設、店舗、集会所などの設置は、比較的はつきり意味づけられてはいたが、さらに、団地内居住者の生活の特徴づける各世帯への有機的連絡施設の設置が必要なのではあるまいか。

たとえば、郵便物の配達、外出時の連絡にしても、銀

行におけるナイトデポジットのような施設を集約的に設けるとか、年中使いはしないが、たまには必要といった道具類(たとえば大工道具、脚立など)を一括して貸し出すような機関とか、託児所(これは単に乳幼児に限らず児童までも含めて)などの設置といった、集団住宅故に可能な日常生活の集約化を、公共的施設として考えてもよいのではあるまいか。

4.4 こうして、交際が方便的なものから脱した時に、はじめて団地内生活の横の連絡に、より本質的なものが期待でき、さらに住戸形式、棟配置等に、新しい計画や方向が考えられることになろう。

§ 5. おわりに

5.1 本論の資料は、武蔵工業大学工学部建築学科の1961年度卒業論文として、筆者の染中および小田重男氏(現在東急建設勤務)により提出された共同研究“住宅団地における交流の性格——公団、百合ヶ丘、日吉両団地の実態調査から——”から引用したものであり、筆者の太田は、同大学講師として同論文の指導に当たったことを付記する。なお、本論の研究過程において、同大学1960年度の卒業論文として、谷口哲彦氏(現在総理府首都圏整備委員会勤務)の提出された“団地に於ける集会の性格——都下北多摩郡ひばりヶ丘団地の場合——”を参照したことを併記する。

5.2 以上、本論作成に当って、実際に関与された上記、小田重男氏、並びに研究に示唆を与えられた谷口哲彦氏、調査活動に便宜を与えてくださった住宅公団の土肥博至氏、また調査に御協力いただいた百合ヶ丘、日吉、ひばりヶ丘団地の居住者各位に、感謝の意を表したい。

<参考文献>

- 1) アパート団地における集団の性格と集会の内容： 鈴木成文、牛田尹久子：日本建築学会論文報告集(以下論報と略す)第60号、昭和33年10月
- 2) アパート団地における集会所利用層の分析： 鈴木成文、牛田尹久子：論報 第60号、昭和33年10月
- 3) 団地集会所における集会の性格と内容： 前田尚美、土肥博至、唐崎健一：論報 第66号、昭和35年10月
- 4) 集団住宅地における配置形式と近隣関係： 栗原嘉一郎、藤田昌美、多胡進、大藪寿一：論報 第69号、36年10月
- 5) 住宅団地内外のコミュニケーションについて： 谷口汎邦：論報 第69号、昭和36年10月
- 6) 自意識による居住関れん施設計画の解析(洋間型の場合)： 小泉正太郎：論報 第69号、昭和36年10月
- 7) ホワイトカラー層の住要求(プライバシーについて)： 扇田信：論報 第69号、昭和36年10月
- 8) 公的空間に関する分析(公団アパートにおける公私両空間の分化について——1～3)： 鈴木成文、下山真司、犬木幸子、山成彩子、増山雅二：論報 第69号、昭和36年10月
- 9) Planning: Social and Recreational, radburn planning: a reassessment, 2—footpath or road access? a social enquiry, 1: The Architects' Journal Nov. 17, 1960